

「動物と人の予防医学研究会」

多岐に亘る分野からの参加者が持つ知識・経験・アイデアなどを結集して、**動物と人の健康増進と良好なQOLの達成に繋がるイノベーションを図り、情報発信を行う**ことを目的に設立した。

SPMAH



役員(五十音順)

- 新井 敏郎(日本獣医生命科学大学名誉教授):副理事長
大池 秀明(農業・食品産業技術総合研究機構)
大西 保行(公益財団法人実中研)
岡田 徹(あすかアニマルヘルス株式会社(業務委託))
小原 道子(帝京平成大学)
小林 元郎(成城こぼやし動物病院、株式会社101)
高木 敬彦(帝京平成大学):監事兼任
千葉 修一(三栄源エフ・エフ・アイ株式会社):監事兼任
中江 大(帝京平成大学、東京農業大学客員教授):理事長
福島 亮治(帝京平成大学)
松本 高明(メディサイエンス・エスポア株式会社)
宮下 和夫(北海道文教大学、北海道大学名誉教授)
守口 徹(株式会社食機能探索研究所BABILON、麻布大学名誉教授)
和田 佑一(帝京平成大学)
和田 竜哉(日本薬品株式会社)
矢澤 一良(早稲田大学):副理事長

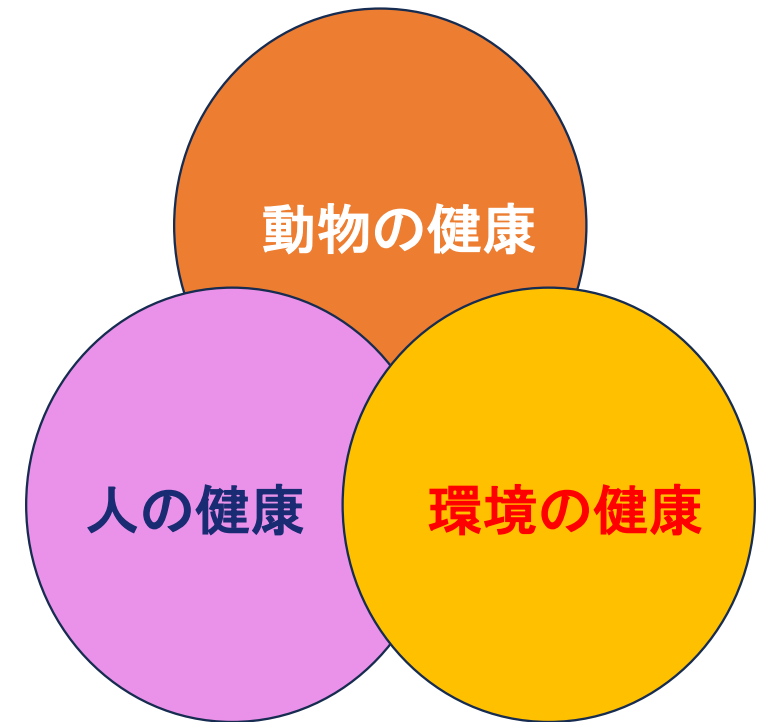
賛助会員(五十音順)

あすかアニマルヘルス株式会社
いなば食品株式会社
株式会社 カネカ
株式会社 トーエートレーディング
株式会社 ヤクルト本社
株式会社CXウエルネス
帝京平成大学
日本薬品株式会社
ペット未病研究会
ヤマモリ株式会社

アニコム先進医療研究所株式会社
オリエンタル酵母工業株式会社
株式会社 紀文食品
株式会社Mizkan
株式会社 ランス
三栄源エフ・エフ・アイ株式会社
日本エスエルシー株式会社
不二製油株式会社
野菜で健康研究所株式会社

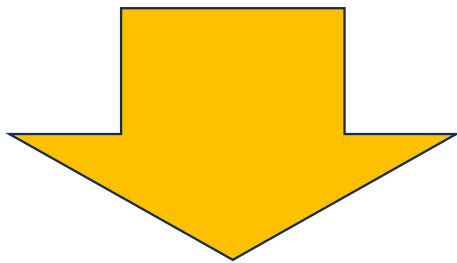
One Health/One World, One Health

- 動物の健康、人の健康、そして環境（生態系）の健康は、不可分である。
- 動物と人と環境は、それぞれ影響し合い、**いずれかが健康で幸せであること、また、いずれかを健康で幸せにすることで、残り二つにも健康と幸せがもたらされる。**



新しい動物と人の予防医学

- 動物と人の**インタラクション**を標的とする
それぞれ別に、ではない！
- 動物と人が**一緒に**アクションする
「幸せ」を共有！



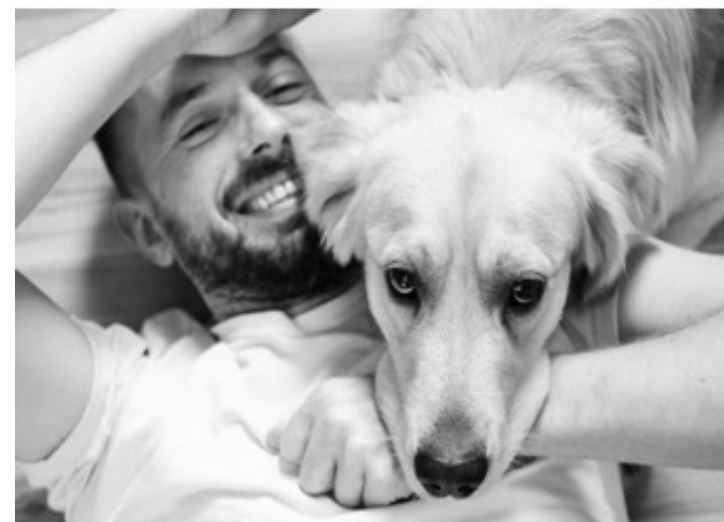
双方のQOLを同時に向上させる！



動物と人の健康増進と QOL向上

たとえば伴侶動物と飼い主のインタラクションによる...

- **飼い主の精神的な幸福感**
 - 動物が幸せそう → 飼い主の幸福感
 - 動物を幸せにすること
→ 飼い主の満足感
- **伴侶動物の精神的な幸福感**
 - 飼い主が幸せそう → 動物の幸福感(?)
 - 飼い主を幸せにすること
→ 動物の満足感(?)



動物と人のインタラクションによる両者のQOL向上の例

- 伴侶動物を**散歩**に連れて行く。
 - 伴侶動物は、**運動を担保**され、満足感や幸福感を得る。
 - 飼い主は、**運動を担保**され、満足感や幸福感を得る。
 - 伴侶動物と飼い主の**双方のQOLが向上**する。



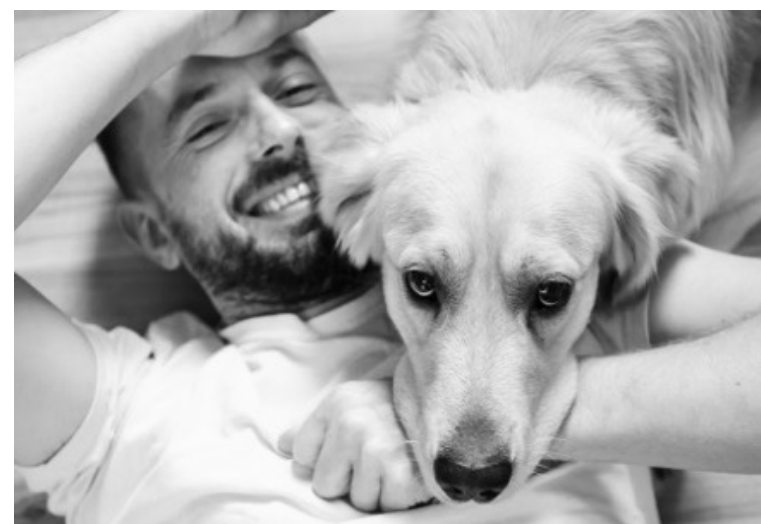
動物と人のインタラクション による相乗効果

- 動物と飼い主が、同じ「体に良い」ことを一緒に行う。たとえば...
 - 同じ「体に良い」食べ物を食べる。
 - 同じ「体に良い」運動をする。



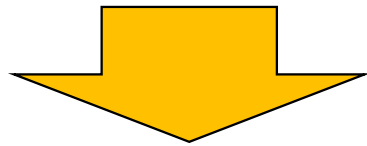
双方の

- ✓健康が増進する。
- ✓満足感・幸福感がもたらされる。
- ✓QOLが改善する。



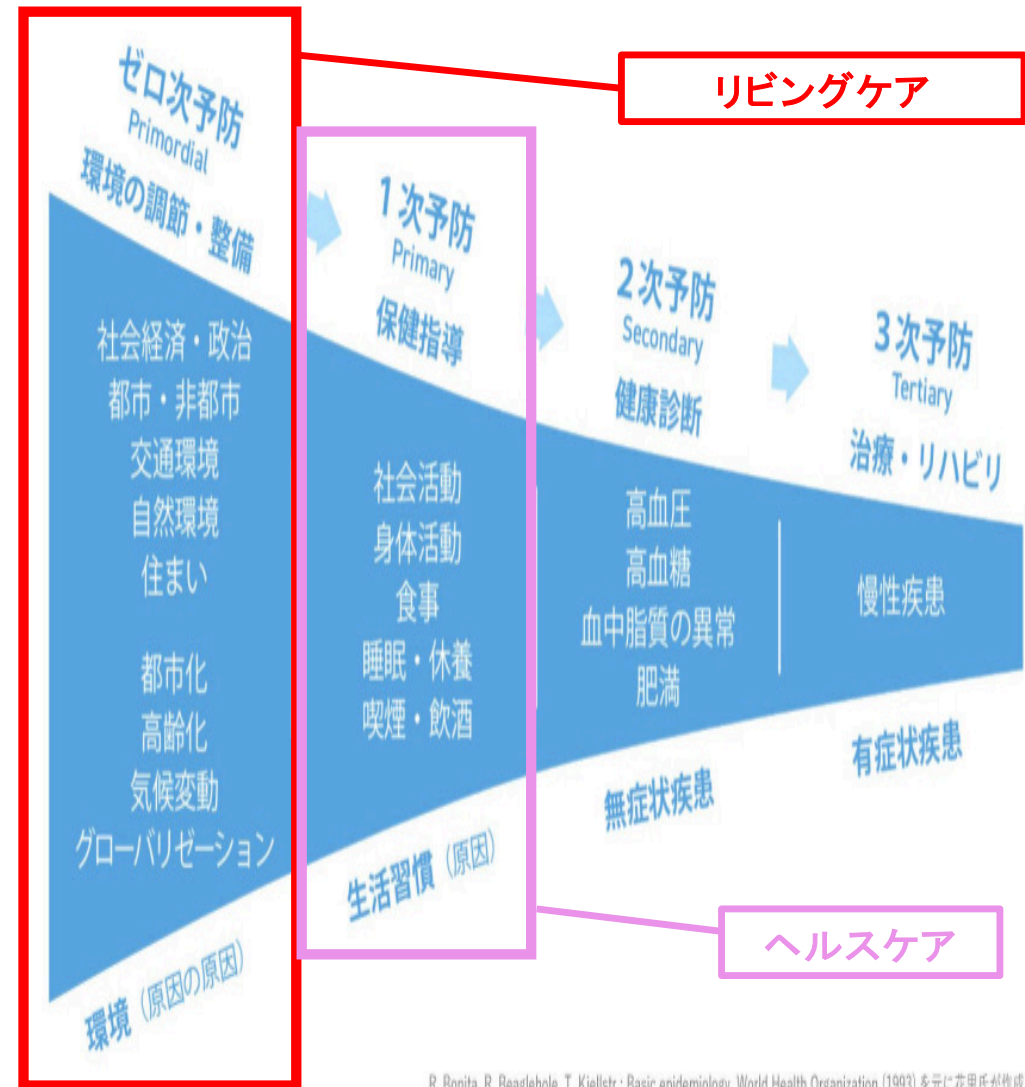
動物と人の健康増進と QOL向上

- 健康寿命の延伸
- 健康で「幸せ」な生活の達成



予防が重要

- ゼロ次予防を含む、
広義の予防「医学」
- 「未病」、そしてさらにその前



R. Bonita, R. Beaglehole, T. Kjellstr: Basic epidemiology, World Health Organization (1993) を元に花里氏が作成

<https://toyokeizai.net/articles/-/659246> から引用

予防の結果

動物も人も**健康**になる。

動物も人も**清潔な環境**が得られる。

動物も人も**快適で幸せ**になる。

動物と人の予防医学研究会の事業

動物と人のインタラクションをターゲットに、
動物と人、双方のQOLを向上させる！

できれば、共通する介入方法で

- 動物と人のための「**予防医学のプラットフォーム**」を設定。
- 「**動物用ウェルネスフード**」を確立。

予防医学のプラットフォーム



これからの「動物と人の予防医学」

動物と人が共生することに幸せを感じるために、より丁寧に、より広く知識を集結し、より速く実現可能な方法を見つける。

- 食品や栄養: 健康な時は食品で、しんどい時はサプリメント
 - 動物とヒトが「同じもの」を摂取する。 → 一緒に健康になる。
 - セロトニン・オキシトシンなどの分泌促進による「幸福効果」。
 - 認知機能向上やストレス低下で、QOL向上。
 - 幼齢・若齢動物に摂取させることによる「真の一次予防効果」。
 - 熟齢・老齢動物に摂取させることによる老化・疾患悪化防止効果。
- AIなどペットテック

伴侶動物市場の現状

- 日本の伴侶動物飼育頭数は、2008年に2650万頭でピーク。2021年には1700万頭まで減っている。
- 7割が7歳以上で、1歳未満は4.9%（頭数維持に8%が必要）。
- 5-8年後には、頭数のドラスティックな減少が予想される。
- 日本（マーケット規模 1兆6千億円）において、伴侶動物ビジネスとして今後は「頭数」に依存するビジネスに先が無いが、質を標的とするビジネスは有望。
- アジアでは成長の余地がある。中国（マーケット規模 6兆円、5年後にプラトーに達すると予想される）・韓国・台湾の成長は先が見えてきたが、ASEAN諸国10-15%の成長が続いている。

動物と人の予防医学の留意点

日本では...

社会の三分の一は動物が好きだが、
三分の一はきらい(アレルギーも含む)だし、
三分の一は興味がない

- 最後の層を取り込むことにより、**動物ビジネスが飛躍**
- **「動物がいるのが普通」**という社会の実現(欧米化)

動物と人のための予防医学のプラットフォーム

- 食品(成分)利用、栄養制御、動物介在活動、行動制御、環境制御、公衆衛生、動物福祉の促進など**様々な領域に属する産官学民の方々にアイデア・知識・経験・(原)材料・材料加工/テクスチャー操作技術などのリソースを持ち寄っていただく。**
- **イノベーティブな介入方法を見出す。**
- **成果の情報発信と社会実装を図る場を提供する。**
- **新たな世代の養成や教育・啓発の場にしていただく。**

具体的な計画：ディスカッションページを2026年開設予定

- 研究会ホームページの**会員専用コンテンツ**内に**ディスカッションページ(掲示板)**を設ける。
- 研究会または会員が**テーマを設定し**、掲示板に掲載する。
- 希望者が**テーマページ内でディスカッション、マッチング**などを行う。
- 成果を**学術集会等で発表**してもらったり、**共同事業**につなげる。後者の場合は、研究会起源であることを公表してもらう。



ディスカッション
ページ

- 口腔ケア
- プロバイオティクス
- ストレスケア
-
-
-

口腔ケアのテーマ

動物のサプリメント

- 現在の市場動向によれば、伴侶動物用サプリメントの購入目的は、**運動機能改善・腸内環境改善・栄養補助・皮膚と毛並み改善**などが多い。
- 認知障害対策、アレルギー対策、歯みがき、ダイエット、誤嚥防止、安全で簡便な服薬補助なども、購入目的として多い。

現状より、さらによいものが望まれている。
機能的にも、安全性でも、材質的にも！

伴侶動物と飼い主が同じもので口内・腸内環境を改善

- 伴侶動物の「**歯みがき**」は**至難**であり、新しい方法論が求められている。
- 口内環境改善は、**認知機能低下の防止など全身に好影響**を及ぼし得る。
- 伴侶動物の「**歯みがき剤**」は**食品**である。
人の「**歯みがき剤**」は食品じゃないが、食品であってもよい。
- プロバイオティクス・バイोजェニックスやプレバイオティクスなどを利用した口内環境改善では、**動物と飼い主が同じ「もの」**を使った介入も可能で、「**歯みがき**」後に「**食べる**」ことによって腸内環境改善も加味できる。
- 動物と人の両者が一緒に同じ方法で腸内環境改善に取り組むことにより、**心理的相乗効果**が期待できる。

こんなものがあれば...

- 口に入ると、口腔内で歯・歯茎の周りに**一定時間留まる**。
- 表面にコートしたプロバイオティクス・バイオジェニックスやプレバイオティクスが**口腔内で放出**される。
- プロバイオティクス・バイオジェニックスやプレバイオティクスは、消化過程で**腸内にも放出**される。
- 動物も人も**美味しい**。そして、**人の手を汚さない**。

伴侶動物と飼い主の**アミノ酸・プロバイオティクス**セレクション 一緒のおやつやサプリメントを食べてQOL向上！

- **アミノ酸(添加や食事の組成修飾)**
 - 動物実験で「アミノ酸食化」の功罪が判明(自験例を含む)
 - ヒトでは、アミノ酸プロファイルによる健康リスク判定も実用化
 - BCAAなど特定のアミノ酸による生活習慣病・フレイル・認知障害などの予防・増悪阻止/遅延効果
 - グルタミン酸などが旨味受容体を刺激してオキシトシン・セロトニンなどの分泌促進
- **プロバイオティクス**
 - 口内環境の良好化、腸内細菌叢の良好化による代謝改善、免疫機能亢進、脳活性化などによって、生活習慣病・認知障害などの予防・増悪阻止/遅延

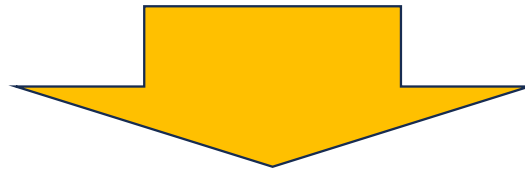
伴侶動物と飼い主の**アミノ酸・プロバイオティクス**セレクション 一緒のおやつやサプリメントを食べてQOL向上！

● **アミノ酸**や**プロバイオティクス**を

- **体質**や**予防目的**に合わせてコーディネート！
- **食事**中の**組成**レベルでオーダーメイド！
 - ◆ **サプリメント**として摂取
 - ◆ **食事**中の**1品(以上)**を置き換え
 - ◆ **食事全体**を設計
 - ◆ **おやつ**として摂取 ← 動物にも「デザート」の喜び

伴侶動物のフードやおやつとの与え方を改善

- ドライフードや乾燥おやつを細かくするか、柔らかくしないと食べ(られ)ない個体がいる。
- 湯水でふやかすと、時間がかかるし、味が変わって食べない場合がある。
- 割ったり切ったりすると、尖ったものができて危ない。



- **短時間(瞬時)にドライフードや乾燥おやつテクスチャーを変化させ、**
 - ✓ **尖ったものなく細かくできるものにする**方法を開発する。
 - ✓ **味を変えずに柔らかくしたり、ゼリー化したりする**方法を開発する。

伴侶動物と人のため魚のよりよい利用法 「丸っぽ」

- 魚の栄養素は、**内臓や皮や骨などにも豊富**に含まれている。
- 魚を丸ごと食べることにより、それらの栄養素を一括して摂取できる。

「丸っぽ」

- 実際にそうした調理法はあるが、家庭では難しい場合もあり、また、苦味などで敬遠される場合もある。
- それらを**簡単に食べやすく、動物と人が一緒に食べられる食品に加工**すれば、両者同時に野菜本来の栄養を摂取し、QOLを向上させることができる。

伴侶動物と人が一緒に智育と認知機能維持・向上

- 伴侶動物の智育玩具は、食べ物を探し出すというコンセプトがほとんど。



- 伴侶動物の智育と、飼い主の子供の智育と、飼い主の認知機能維持・向上が同時にできるような玩具(たとえば、ゲーム性のあるもの)を開発する。



- 家族みんなで楽しみながらQOLを向上させる。

たとえば玩具の表面にプロバイオティクスやプレバイオティクスをコーティングしたらどうか？

フードやおやつ、それらのパッケージ、 また、タオル用品類の色をコーディネート

- 特定の色が好きな個体がいる
- 科学的にある動物種(たとえば犬)が好きな色、見えやすい/見えにくい色が報告されているが、必ずしも一致しない
 - たとえば犬は赤が見えにくいとされる一方で、赤を好むとも報告されている
- 個体別、また、状況別に「好き」な色が違う

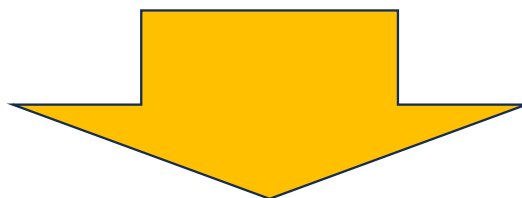
食品・パッケージ・用品に多彩な色ヴァリエーション
(たとえば(虹の)7色とか、12色とか)のを用意しては？
さらに、**伴侶動物と飼い主で「色合わせ」ゲーム**ができれば？

動物介在サービス(AAS)分野での貢献

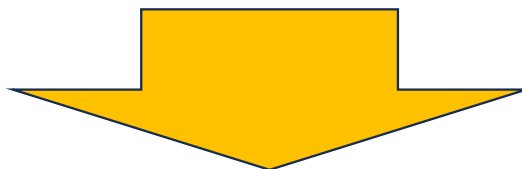
- いわゆる **アニマルセラピー** である動物介在治療 (AATx) ・動物介在教育 (AAE) ・動物介在支援 (AASP) に関与する。
- **動物と人が一緒に活動** することによって、両者の身体的・精神的健康を増進し、QOLを改善する：**幸福感や達成感を共有**する。
- 従来 of AAS 概念である「人の治療・介護・教育などに動物を利用する」のみならず、その逆に **動物の治療・介護・教育などに人を利用**することも考え、そこに予防医学的介入を組み入れる。

伴侶動物と人が一緒にゆったり楽しめる場

- 伴侶動物には、それほど強い運動を好まない個体がいる。高齢の動物も強い運動はできない。そして、同じことは、飼い主にも言える。



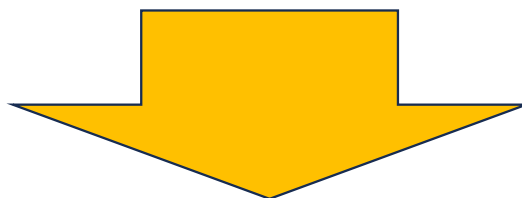
- 伴侶動物と飼い主の**双方がゆったり楽しめる場**(遊歩道や広場など)を用意する。



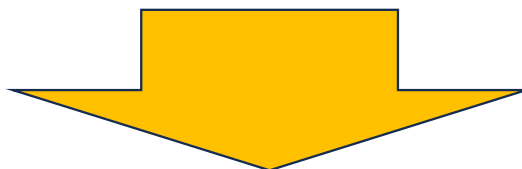
- 伴侶動物と飼い主が**一緒に楽しみながら**QOLを向上させる。
- **動物を飼っていない人たち**も利用してQOLを向上させられる。

伴侶動物と人が一緒に芸術を楽しみつつQOL向上

- 伴侶動物には、絵画や音楽や映像などの芸術を「楽しむ」ことができる（ように見える）個体がいる。



- 伴侶動物と飼い主の**双方が好み、楽しめる「芸術」**や、それらを**一緒に楽しめる場（イベントなど）**を用意する。



- 伴侶動物と飼い主が**一緒に楽しみながら**QOLを向上させる。

老齡の伴侶動物と人の共生システム

動物介在介護などで既に一部で現実化しているが...

- 飼い主と伴侶動物の一方または両方が高齡、という場合、両者が一緒に入所できる施設を開設する。
- 特に両者高齡の場合、職員の補助の下、可能な範囲で「老老介護」を行うシステムを構築し、両者のQOL改善を図る。
- 社会の中に、老齡の伴侶動物と人が一緒に楽しめる場所やイベントを設ける。

動物用ウェルネスフード



動物用ウェルネスフードが求められる背景

- 健康増進機能を有する食品は有用であるが、科学的に確証のない「いわゆる健康食品」が氾濫している。
- 人の場合は、特定保健用食品(トクホ)や機能性表示食品などの制度が整備されている。
- 健康機能を持ち、伴侶動物を対象とする食品や、産業動物を対象とする飼料については、開発の試みがあるが、それらを担保する制度がない。
- 伴侶動物向けの食品の安全性はペットフード安全法が、成分表示などは景品表示法が規制しており、ヘルスクレームについては薬機法に抵触するようなものが厳しく規制されていて表示・宣伝ができない。

動物と人の予防医学研究会の方向性

- **規格基準や有効性・安全性評価のガイドライン、認証制度**などシステムを整備することにより、動物用ウェルネスフードの**カテゴリーを確立し、新たな研究・開発テーマとマーケット**を作り出す。
- 可能なら動物と人が一緒に使用できるものを推奨することで、動物と人が**一緒に健康で幸福な生活**を送ることができる社会の実現を目指す。

具体的な計画：「動物と人のウェルネスフードオンラインセミナー」を 2026年から定期的に開催予定

- **健康増進機能を有するとされる食品成分ごとに、年数回**のオンラインセミナーを開催。
- 理事・評議員や賛助会員、また、それらの方々が推薦して下さる専門家を講師に迎える。
- 活発なディスカッションにより、会員に、**ウェルネスフードの研究・開発・上市に有用な情報**を得てもらう。
- さらに、ディスカッションを通じた**会員間のマッチング**もあり得る。
- 会員(参加費無料)のみならず、非会員(参加費有料、または入会により当該年度の参加費無料)の参加も歓迎。

- 扱うテーマの例
プロバイオティクス、藻類、 ω 3脂肪酸、アスタキサンチン、GABA、クリルオイル、ホエープロテイン、ペットフードの食感・物性改良など

検討中の計画：2026年以内に決定

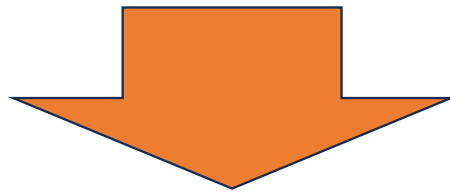
- **科学的な根拠**に基づき、研究会が責任を持てる、動物用ウェルネスフードに関連する**認証制度**を創設する。
- 動物用ウェルネスフードのカテゴリー確立のための**ガイドライン(有効性および安全性)案**を取り纏めて、論文として広く提案する。

そのほか



「臨床試験」のサポート

- 動物向けの食品を新たに開発・上市するためには、「臨床試験」が必要。
- 臨床獣医さんの協力が必要だが、最近は困難。



研究会が臨床獣医さんや、その所属機関・職能団体と、メーカーとの間をつないでサポート。

「抗体検査」などのサポート

- 抗体が十分にあれば、ワクチン接種は不要。
- 抗体検査をルーチン化することで、ワクチン接種を減らし、動物福祉に貢献できる。
- 臨床獣医さんと検査機関の協力が必要で、両者間のコーディネートが求められている。



研究会が臨床獣医さんや、その所属機関・職能団体と、検査機関との間をつないでサポート。

新しい分野

- 動物と人の**遺伝子プロファイル**を利用した**疾患**(認知障害・加齢性変化を含む)の**リスク予想**や**予防**
- 「人の治療・介護・教育などを動物にサポートしてもらおう」を利用する**動物介在サービス(AAS)**と、その逆に**動物の治療・介護・教育などを人にサポートしてもらおう**サービスを組み合わせる**予防医学的介入**
- 動物と人の共生のための場やイベント:**ゆったり楽しむ、芸術を楽しむ、家庭や高齢動物・高齢者施設で楽しむ** ←**動物無関心層も楽しめるように**
- **動物実験代替法**の普及促進による**動物福祉の向上**

SPMAH



動物と人の予防医学研究会

ホームページ：<https://animal-human-preventive-medicine.com/>



代表メールアドレス：info@animal-human-preventive-medicine.com



研究会入会申込サイト：
<https://gkb.jp/s/ahpm/application>

